2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月11日

上場会社名　　株式会社あじかん　　上場取引所　東
コード番号　　2907　　ＵＲＬ　https://www.ahjikan.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役　社長執行役員　　（氏名）足利　直純
問合せ先責任者（役職名）経営管理部長　　（氏名）森屋敷　登　　ＴＥＬ　082-277-7011

半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　－

決算補足説明資料作成の有無：　有

決算説明会開催の有無　　：　有　　（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	25,658	2.9	659	333.4	733	181.4	486	170.8
2026年３月期中間期	24,943	△0.6	152	△88.3	260	△80.5	179	△80.5

（注）包括利益　　2027年３月期中間期　　633百万円（346.5%）　　2026年３月期中間期　　141百万円（△87.1%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	65.06	－
2026年３月期中間期	23.63	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	29,019	18,546	63.9	2,477.63
2026年３月期	27,158	18,302	67.4	2,445.06

（参考）自己資本　　2027年３月期中間期　　18,546百万円　　2026年３月期　　18,302百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	52.00	52.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	58.00	58.00

（注１）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,500	6.0	1,500	17.2	1,700	3.5	1,150	3.5	153.63

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：　無

新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	7,700,000株	2026年３月期	7,700,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	214,554株	2026年３月期	214,553株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	7,485,447株	2026年３月期中間期	7,610,947株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（中間連結損益計算書に関する注記） …… 9
（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、景気は緩やかに回復しました。個人消費は持ち直しの動きがみられ、設備投資は増加基調にあるほか、輸出は回復傾向にあり、生産も総じて回復の動きがみられました。一方で、中東情勢の緊迫化や自然災害、金融資本市場の変動など、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しました。また、消費者物価は緩やかに上昇し、企業においては各種コストの高止まりが続くなど、厳しい事業環境が継続しました。

食品業界におきましては、原材料価格やエネルギー価格、物流費、人件費などの各種コストが高止まりする状況が続きました。加えて、物価上昇を背景とした消費者の節約志向や、価格改定による需要への影響などにより、市場環境は引き続き厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは「“おやくだち”の精神でお客さまや取引先、株主、社会へ貢献し、社員がいきいきと働く風土づくりと安定した収益構造および価値創造ビジネスの推進により、“選ばれる企業”として持続的に成長していく」ことを基本方針とする第13次中期経営計画の最終年度として、第一に「収益構造改革の完遂」、第二に「業務用事業の質的成長と拡大」、第三に「ヘルスフード事業、海外事業の成長拡大」、第四に「ごぼう事業、市販事業の新たな価値の創造」、第五に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、25,658百万円（前年同中間期比2.9％増加）となり、前年同中間期を上回りました。利益面につきましては、当社の主要原材料である鶏卵価格が前年同中間期をやや下回ったものの依然として高い水準で推移したことに加え、人件費や物流費も上昇しました。しかしながら、販売品の構成差異などにより、営業利益は659百万円（前年同中間期比333.4％増加）となりました。経常利益は、為替差益や持分法による投資利益などの営業外収益を計上したことに加え、長期為替予約評価損などの営業外費用があったものの、733百万円（前年同中間期比181.4％増加）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は486百万円（前年同中間期比170.8％増加）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、前連結会計年度における米や海苔などの価格高騰により、巻き寿司用具材の需要は引き続き伸び悩みましたが、主力製品である玉子焼類を中心にスーパーマーケットや外食産業、ビジネスホテルを中心とした宿泊施設向けの需要が堅調に推移しました。

海外向け輸出売上につきましては、厚焼玉子やかに風味蒲鉾を中心に北米、オセアニア、シンガポール、その他アジア諸国での需要が増加しました。加えて、中国子会社および米国子会社での現地販売も拡大したことから、前年同中間期を上回る結果となりました。

生産面におきましては、魚肉すり身や副材料・補助材料の価格が高値で推移したことに加え、人件費や物流費が増加したものの、主要原材料である鶏卵価格が前年同中間期をやや下回って推移したことや、生産効率の向上に努めた結果、製造原価率は前年同中間期に比べ低下しました。

販売費につきましては、人件費や物流コストの上昇に加え、新規事業の広告宣伝費などにより、前年同中間期に比べ増加しました。

なお、2026年５月より一般発売を開始した「あじかんごぼうＲＥＳＥＴ　ＳＯＵＰ」につきましては、通信販売を通じた拡販に向け、広告宣伝などの販売促進活動を強化してまいりました。

これらの結果、外部顧客への売上高は23,544百万円（前年同中間期比3.3％増加）となり、セグメント利益（営業利益）は1,529百万円（前年同中間期比60.6％増加）となりました。

②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売では定期顧客数が減少したものの、売価改定やテレビＣＭの効果などにより、「焙煎ごぼう茶 ごぼうのおかげW」など、機能性表示食品の販売が伸長したほか、「ＧＯＶＯＣＥ ミルク」や「機能性 ごぼう茶プリ」などの新製品の発売効果もあり、売上高は前年同中間期を若干上回る結果となりました。

一方、ドラッグストアなどで販売する市販品につきましては、新製品である「Ｄｒ.ナグモのイヌリン青汁W」などの発売効果があったものの、売上高は前年同中間期を下回る結果となりました。

生産面におきましては、副材料や補助材料が高値で推移したことに加え、生産高の減少による固定費負担が増加し、製造原価率は前年同中間期を上回る結果となりました。

販売費につきましては、戦略的な広告宣伝の実施や人件費、物流費などの継続的な上昇により、前年同中間期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は1,903百万円（前年同中間期比0.8％減少）となり、セグメント利益（営業利益）は84百万円（前年同中間期比32.4％減少）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の概況

（資産）

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,861百万円増加し29,019百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ103百万円増加し13,907百万円となりました。主な増減要因は、売掛金の増加302百万円、商品及び製品の増加263百万円、流動資産のその他に含まれる前払費用の増加151百万円、現金及び預金の減少388百万円などであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,758百万円増加し15,112百万円となりました。これは、事業用地の取得による増加655百万円に加え、減価償却の進行を上回る有形固定資産取得や、所有銘柄の株価上昇に伴う投資有価証券の増加によるものであります。

（負債）

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,617百万円増加し10,473百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,296百万円増加し8,840百万円となりました。主な増加要因は、短期借入金の増加700百万円、買掛金の増加324百万円、未払法人税等の増加160百万円などであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ321百万円増加し1,632百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加291百万円などであります。

なお、当中間連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ1,071百万円増加し4,230百万円となっております。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ243百万円増加し18,546百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上による増加486百万円、剰余金の配当による減少389百万円、その他有価証券評価差額金の増加126百万円などであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.5ポイント低下し63.9％となりました。

②キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の中間期末残高は、前連結会計年度末に比べ388百万円減少し1,938百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は1,101百万円（前年同中間期比266.1％増加）となりました。主な収入要因は、税金等調整前中間純利益730百万円の計上および減価償却費660百万円です。一方、法人税等の支払額121百万円や、売上債権・棚卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での使用130百万円などがありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は2,119百万円（前年同中間期比307.3％増加）となりました。これは、事業用地の取得や、営業システムの整備、生産設備の増強およびメンテナンス投資などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は589百万円（前年同中間期は22百万円の獲得）となりました。これは、短期借入金および長期借入金の純増加額1,071百万円、配当金の支払額389百万円、利息の支払額47百万円、リース債務の返済による支出45百万円などがあったことによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間までの業績につきましては、売上高は当初の業績予想を若干下回る結果となりました。一方、利益面では、棚卸資産の評価替えや、販売品の構成差異などにより、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益が業績予想を上回る結果となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、鶏卵をはじめとする冬場の原材料価格や為替・株価など、業績に影響を与える流動的な要素が多いことから、前回予想を修正しておりません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,336	1,948
売掛金	5,784	6,086
商品及び製品	3,096	3,360
仕掛品	64	83
原材料及び貯蔵品	1,709	1,623
その他	819	810
貸倒引当金	△7	△6
流動資産合計	13,803	13,907
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,355	3,265
機械装置及び運搬具（純額）	1,943	2,099
土地	4,155	4,810
リース資産（純額）	172	143
その他（純額）	452	1,389
有形固定資産合計	10,079	11,709
無形固定資産		
ソフトウエア	603	596
ソフトウエア仮勘定	79	49
リース資産	0	0
その他	3	4
無形固定資産合計	686	650
投資その他の資産		
投資有価証券	1,135	1,320
長期前払費用	3	2
繰延税金資産	12	9
退職給付に係る資産	606	626
その他	856	815
貸倒引当金	△24	△21
投資その他の資産合計	2,588	2,753
固定資産合計	13,354	15,112
資産合計	27,158	29,019

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,911	3,235
短期借入金	1,810	2,510
１年内返済予定の長期借入金	507	587
リース債務	77	63
未払法人税等	159	319
賞与引当金	328	454
役員賞与引当金	―	22
契約負債	51	52
その他	1,697	1,595
流動負債合計	7,544	8,840
固定負債		
長期借入金	840	1,132
長期未払金	46	46
リース債務	119	100
資産除去債務	53	53
退職給付に係る負債	20	20
繰延税金負債	209	228
その他	21	51
固定負債合計	1,311	1,632
負債合計	8,855	10,473
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	15,040	15,137
自己株式	△250	△250
株主資本合計	16,991	17,088
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	508	635
繰延ヘッジ損益	23	5
為替換算調整勘定	779	816
その他の包括利益累計額合計	1,311	1,457
純資産合計	18,302	18,546
負債純資産合計	27,158	29,019

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	24,943	25,658
売上原価	18,938	18,739
売上総利益	6,004	6,919
販売費及び一般管理費	※ 5,852	※ 6,260
営業利益	152	659
営業外収益		
受取利息	1	3
受取配当金	25	26
持分法による投資利益	52	51
為替差益	38	89
その他	25	13
営業外収益合計	143	184
営業外費用		
支払利息	17	29
長期為替予約評価損	10	72
その他	7	8
営業外費用合計	35	110
経常利益	260	733
特別利益		
固定資産売却益	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産除却損	18	4
特別損失合計	18	4
税金等調整前中間純利益	241	730
法人税、住民税及び事業税	75	272
法人税等調整額	△13	△28
法人税等合計	62	243
中間純利益	179	486
親会社株主に帰属する中間純利益	179	486

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	179	486
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	126
繰延ヘッジ損益	8	△18
為替換算調整勘定	△108	114
持分法適用会社に対する持分相当額	△33	△77
その他の包括利益合計	△38	146
中間包括利益	141	633
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	141	633
非支配株主に係る中間包括利益	―	―

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	241	730
減価償却費	610	660
賞与引当金の増減額（△は減少）	110	125
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	23	22
契約負債の増減額（△は減少）	△0	0
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△18	△20
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△3	△4
持分法による投資損益（△は益）	△52	△51
受取利息及び受取配当金	△27	△30
支払利息	17	29
有形固定資産売却損益（△は益）	△0	△2
有形固定資産除却損	18	4
売上債権の増減額（△は増加）	△213	△291
棚卸資産の増減額（△は増加）	219	△161
仕入債務の増減額（△は減少）	310	322
未収入金の増減額（△は増加）	85	△3
未払金の増減額（△は減少）	△157	△18
未払消費税等の増減額（△は減少）	△78	△25
その他	△510	△62
小計	573	1,223
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△272	△121
営業活動によるキャッシュ・フロー	300	1,101
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の売却による収入	0	2
有形固定資産の取得による支出	△520	△2,027
無形固定資産の取得による支出	△135	△128
利息及び配当金の受取額	134	30
その他	0	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△520	△2,119
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	50	700
長期借入れによる収入	600	656
長期借入金の返済による支出	△323	△284
利息の支払額	△19	△47
リース債務の返済による支出	△55	△45
自己株式の取得による支出	－	△0
配当金の支払額	△229	△389
財務活動によるキャッシュ・フロー	22	589
現金及び現金同等物に係る換算差額	△38	40
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△235	△388
現金及び現金同等物の期首残高	2,255	2,326
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 2,020	※ 1,938

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結損益計算書に関する注記）

※　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
給料手当	1,187百万円	1,238百万円
賞与引当金繰入額	237	264
役員賞与引当金繰入額	21	20
退職給付費用	50	50
貸倒引当金繰入額	△3	△3
荷造運賃	1,068	1,115

（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※　現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
現金及び預金勘定	2,040百万円	1,948百万円
預金期間が３ヵ月を超える定期預金	△20	△10
現金及び現金同等物	2,020	1,938

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日　至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	業務用食品等	ヘルスフード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	22,796	1,918	24,714	229	24,943	－	24,943
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	371	371	△371	－
計	22,796	1,918	24,714	600	25,315	△371	24,943
セグメント利益	952	124	1,077	22	1,099	△947	152

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

２．セグメント利益の調整額△947百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△952百万円及び棚卸資産の調整額４百万円が含まれております。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	業務用食品等	ヘルスフード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	23,544	1,903	25,447	211	25,658	－	25,658
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	402	402	△402	－
計	23,544	1,903	25,447	613	26,061	△402	25,658
セグメント利益	1,529	84	1,613	8	1,621	△962	659

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

２．セグメント利益の調整額△962百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△976百万円及び棚卸資産の調整額13百万円が含まれております。

３．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。